

研究機関：広島大学

研究課題名	人工股関節全置換術における腰方形筋ブロック間欠投与法の術後鎮痛効果の検討
研究責任者名	広島大学病院 麻酔科 教授 堤保夫
研究期間	2020年11月24日 倫理委員会承認後 ~ 2025年3月31日

対象者

2017年1月から2021年12月の間に、広島大学病院で待機的人工股関節全置換術を受けた患者さん。

意義・目的

人工股関節全置換術の術後の痛みは、一般的な痛み止めのみでは不十分な場合が多く、施設ごとに医療用麻薬の点滴や各種神経ブロックなど様々な工夫が実施されています。広島大学では、これまで点滴からの鎮痛や硬膜外鎮痛法という方法で術後鎮痛を実施していました。しかし点滴からの痛み止めだけでは鎮痛効果が不十分であり、硬膜外鎮痛法は全身麻酔前の起きた状態で背中に針を刺す必要があることや、手術の反対側にも麻酔薬が広がるなどデメリットがあります。そこで近年は全身麻酔をしたあとに、股関節の痛みを伝える神経が通る部位（腰方形筋の前面）を超音波で確認して、そこにカテーテルを入れていきます。術後は痛み止めを定期的に流すことで、手術後の痛みの軽減を試みています。この方法が以前の方法と比較して効果があるか、副作用がないか確認することで、今後よりよい鎮痛法が判明すると考えています。

方法

本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。

カルテから使用する内容は年齢、性別、身長、体重、ASA分類、術前合併症、病名、術式、手術時間、麻酔時間、麻酔法（術中や術後の鎮痛法の細かい設定）、術中使用薬剤とその使用量、術後鎮痛薬、0-5の6段階の痛みスケール、副作用です。

（個人を特定可能な情報は解析に用いません）

共同研究機関 ありません。

試料・情報の管理責任者

広島大学大学院 医系科学研究科 麻酔蘇生学 教授 堤保夫

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口